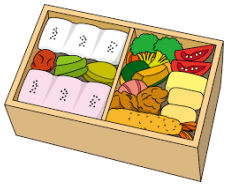
東北被災地スタディツアー

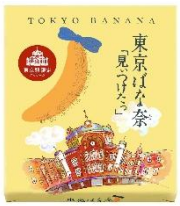
・日時：令和8(2026)年　3月8日(日)、9日(月)
・訪問場所：宮城県名取市閖上、山元町、福島県南相馬市、双葉町など
・引率生徒：H1:16名、H2:5名、H3:4名　合計 25名

●3/8(日)朝 7:30　東京駅八重洲中央口に集合。朝が早かったにも関わらず、遅刻者はなく、天気も良く、素晴らしい旅の始まり。7:56 発<はやぶさ103号>に乗車して、いよいよ仙台へ。









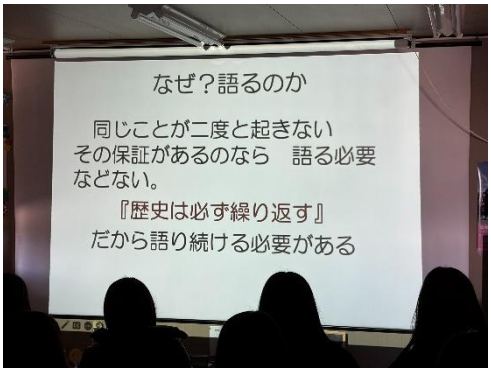
●仙台到着後は、バスで閖上へ移動して、津波復興祈念資料館『閖上の記憶』にて語り部さんのお話を聞きました。



















●昼食後は、名取市震災メモリアル公園を案内していただきました。塔のてっぺん（8．4m）が津波の高さを表しています。









●次は、海岸から300mの位置にあり、震災遺構となっている山元町立中浜小学校を見学しました。震災遺構の保全・管理のために生徒たちが募った募金140,673円を山元町教育委員会教育長の菊池様に直接お渡ししました。募金活動にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。





●中浜小学校では、津波の直撃を受けた校舎屋上に避難した児童、教職員、地域住民など計 90 名全員が生存・救助されました。一晩を過ごした屋上の倉庫の中は、見学はできますが、画像を残すことは諸般の事情で禁止されています。









●ホテルに戻り、夕食後には学年の入り混じったグループを作り、今日の感想や意見交換をして感じたことを共有しました。







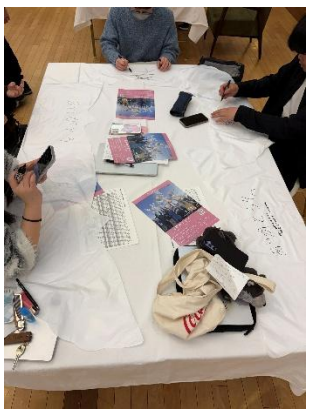




●最後にハト風船にメッセージをかいて、空へ届ける準備をしました。







●3/9(月)朝8:30 ホテルを出発して、東日本大震災原子力災害伝承館に向かいました。『ふたばプロジェクト』の方がバスに同乗して、双葉町駅周辺を車窓から眺めながら、当時の様子や現在の状況、そしてこれからのことを話してくださいました。





●その後、震災遺構の請戸小学校を見学し、大平山霊園(請戸小学校の児童・生徒が津波を逃れた山)を訪れました。
請戸小学校も海から約 300mの立地でありましたが、児童 82 人(または 81 人)と教職員 13 人の全員が津波から避難し、生存(無事)しました。校舎には、津波の爪痕が残されています。













●地域によっては『帰還困難区域』となっており、住むことはできず、宿泊することもできないとのことでした。
約15%の住民は、自宅に戻ることができますが、
約85%の方は、防護服を着用してもたまにしか
戻ることができないそうです。




●東日本大震災原子力災害伝承館に戻り、施設内の展示物、掲示物を見学することで、震災から原発事故までを時系列で学ぶことができました。











●最後に訪れたのは『CREVA おおくま・中間貯蔵事業情報センター』で、中間貯蔵事業、除去土壌等の復興再生利用及び県外最終処分をはじめとする福島の復興・環境再生の取組を発信する施設です。



●高台からは、東京電力福島第一原子力発電所が一望できました。











※最後の最後まで、一生懸命に学ぶ、これからがとても楽しみな生徒たちです。

●『CREVA おおくま・中間貯蔵事業情報センター』からすぐの
　JR 大野駅から<特急ひたち 22 号>に乗車して、東京へ戻りました。





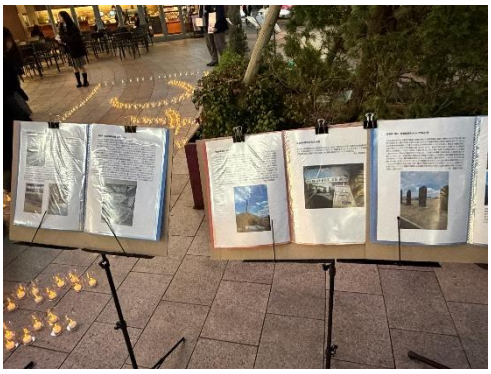




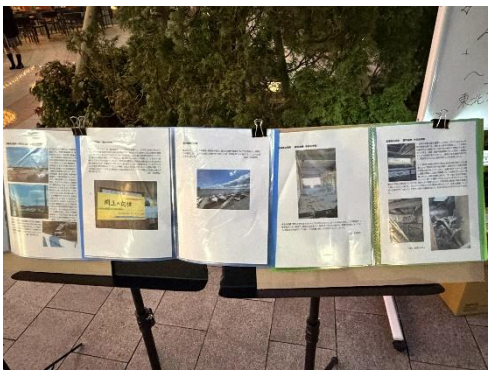
●3/11(水)『キャンドルナイト』 聖蹟桜ヶ丘 VITA　さくら広場　17:30～19:00









☆東北スタディツアーで見てきたこと、聞いてきたこと、感じたことをまとめました。東日本大震災の被災地復興のために、今自分ができること、これから自分たちができることは何なのか。たとえ小さなことでも、1 歩踏み出すこと、できることから取り組むことが大切です。
　生徒の皆さん、君たちは素晴らしいよ！




3.11

山元発第66-5号
令和8年3月11日

多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校　様

山元町長　橋　元　伸　一

寄附採納について（御礼）

令和8年3月8日付けで貴殿から尊いご寄附を頂きましたことに対し、心より敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

なお、ご寄附を頂きました金員につきましては、ご趣旨を尊重させて頂き、震災遺構保全のために活用させて頂きますことをお約束申し上げ、略儀ながら、寄附採納受諾の御礼に代えさせて頂きます。

記

一金１４０，６７３円

担当課：山元町企画財政課財政班
ＴＥＬ：０２２３-３７-１１１８